

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わいわいはうす			
○保護者評価実施期間	R6年 9月 1日		～	R6年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名 (世帯数: 27)	(回答者数)	27名
○従業員評価実施期間	R6年 9月 1日		～	R6年 9月 30日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 10月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、介護福祉士など資格を持った職員が多く、また長く経験のある職員も多く勤務しています。職員の人数も充実しているため、余裕を持った配置を行い、見守りなど安全性に配慮した体制で支援を行っています。あい・さかいサポートリーダーも在籍しています。	児発管、保育士や児童指導員など、各分野の研修に参加するとともに社内研修を実施し、専門性を高めています。	現在、男性スタッフが少ないため、支援の充実を図るため、男性スタッフの雇用を獲得していきます。
2	保護者との連携やコミュニケーションが充実しています。	日々の子どもの様子を、連絡帳及び送迎時に保護者に伝えたり、モニタリング時や来所時に情報共有を行うことで、職員と保護者との信頼関係を深めています。保護者限定として、Instagram（鍵付）を活用してその日の様子を写真や動画で発信しています。	今年度より、事業所の開放日を月に4～5日設けるなどしながら、子どもたちの様子やかかわりをいつでも生で見てもらえるように努めています。
3	児童発達支援と放課後等デイサービス、両方のサービスを一つの事業所で行っているため、幼児～高校生まで幅広い年齢層の子どもたちが利用しています。そのため、大きい子が小さい子のお世話をしてくれたり、小さい子は大きい子の姿を見ながらマネをしようとかんぼったり、お互いに助け合える良い関係やかかわりが出来ています。	個々に合わせた取り組みが出来るよう、個別的配慮や支援を行っています。	日々の活動やお遊びの中で、就労及び自立に向けた活動を取り入れながら楽しく学べるよう、療育を工夫しながら行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の設備上、バリアフリー構造にはなっていないため、車いすが必要な方の受け入れが出来ません。また、2階建ての造りで、階段の上り下りが必要なため、全介助が必要な方の受け入れは現実的に難しいです。	建物は2階建て構造になっていて、手すりは現在、階段のみです。玄関等段差はありますが、スロープがありません。	建物の構造上、オールフラットにすることは不可能なので、必要に応じて、できる限りで手すりやスロープの設置を検討していきます。
2	看護師・PT・OT・ST等、医療系スタッフが勤務していません。そのため、医療的ケアが必要なお子様の受け入れはできません。	医療系スタッフが在籍していないため。	今後、必要になったときには、医療系スタッフの雇用を検討します。
3	現在は女性スタッフは多く在籍していますが、男性スタッフは1名と少ないです。	男性スタッフの求人の応募が少ないこと。	支援の充実を図るため、男性スタッフの雇用を積極的に獲得していけるよう努めます。